

## 【嘉島町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」で述べられているように、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ハードウェア・ソフトウェアの計画的な更新など、ICT環境の持続的な安定が必要不可欠となる。
- (2) 本町では、第6次嘉島町総合計画を策定し、基本理念を「創造性と行動力に満ちた心豊かで魅力ある嘉島の人づくり」としている。そして、基本目標においては、生きる力と思いやりの心を育む学校教育の充実を掲げて具体的施策に取り組んでいる。その中で、学校教育活動の質の充実を図り、児童生徒一人ひとりが学習内容をよく理解し、より豊かな学びにしていくなためにタブレットを有効な文房具として活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現、情報活用能力の育成に取り組み、社会の変化にしなやかに対応できる生きる力を身に付けた子どもの育成を目指す。

#### 2. GIGA第1期の総括

- (1) 令和2年度末までにGIGAスクール構想の実現に向けた校内高速ネットワークの整備、教職員や児童生徒1人1台のタブレット端末の導入が完了した。そして、令和3年度には、GIGAスクール構想の実現に向け、教育委員会と各学校の情報教育担当をメンバーとする「GIGAプロジェクト」を立ち上げた。令和3年度末までに全ての学校、学級に電子黒板の設置、授業支援ソフトや学習支援ソフトの導入を行い、令和4年度には、学習者用インターネット回線（ブレイクアウト回線）の整備を行った。令和5年度には、校務支援システム、退勤アプリの導入、学習eポータル等への接続を行いました。そして、「GIGAスクールプロジェクト」を「ICT活用プロジェクト」と改称し、教務主任、校内研究主任を加えて、校務と学習におけるICT活用の推進を図った。

また、令和3年度からICT活用に関する教職員研修を実施し、令和6年度には、年度当初、夏季休業中等の定期的な開催へと発展させた。各学校でも校内研修の内容としてICT活用が取り上げられており、学校教育の情報化に向けた意識の深化と具体的な実践が進んでいる。

- (2) 学校教育の情報化が進むにつれて次の様な課題が明らかになってきた。
  - ア 学校間や教職員間において活用状況やICT活用能力に差があることが現れてきており、それぞれの教職員のスキルに合わせた研修の工夫、ICT活用リーダー育成の必要性がでてきた。また、情報化のための環境や情報が増えることによる機器の操作、システムの理解、目的に応じて活用するアプリの整理と活用など、教職員がスムーズに活用できるようにする取組も検討する必要がある。
  - イ タブレット機器の不具合、電子黒板との接続の不具合などが発生し、ICT支援員が対応している。そのため、ICT支援員が授業中に直接支援をする時間を生み出すことができていない状況にある。

ウ 学校のネットワークに関して、全学級や学年全体といった多人数が一斉に接続した場合にアクセスできなくなるという通信帯域の不足によるものと思われる不具合が発生している。そのため、ＩＣＴ機器の使用に戸惑いを見せる教職員もいる。

これらは、今後さらに授業におけるＩＣＴ機器やアプリ、ネットワークの利活用を進める上で大きな課題となっている。

町全体としてのレベルアップにつなげていくには、町としてのコーディネート工夫や研修会開催と内容の工夫などについて検討が必要である。また、ネットワークアセスメント等により問題点を突き止め、必要に応じて機器の入れ替えや通信契約の変更等を行っていく必要がある。デジタル教科書の活用も増えていくため、教職員や児童生徒が日常的に必要な「学びの道具」としてＩＣＴ機器や学習支援ソフトなどのデジタルツールを活用できる環境の充実を目指した取組を行っていく。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想により1人1台端末等の整備、活用を始めてから4年目に入り、教職員や児童生徒による学校での授業や家庭学習での日常的な活用が根づきつつある。

そうしたなか児童生徒の学びの道具としての1人1台端末は、端末整備・更新計画に基づき引き続き適切に維持・更新していくことを前提として、以下のように利活用を進めていく。

#### (1) 学校・家庭における積極的活用について

令和5年度から小中連携の授業改善の取組の中で授業におけるＩＣＴ活用を掲げており、各学校での積極的な活用を推進していく。また、家庭学習の習慣化の取組も併せて取り組み、その一環として小学校中学年以上は毎日の持ち帰りを目標としており、成長段階に応じた端末の積極的な活用に取り組んでいる。また、授業中以外でも、タイピング練習アプリや個別学習アプリ等の活用を働きかけおり、学校での活用も進めていく。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習支援ソフトや授業支援ソフト等を導入したことにより、教師のＩＣＴを活用した授業づくりに対する意識が高まり授業改善が進んできている。授業の中で、児童生徒が、自分の特性や理解度・進度に合わせて学習を進める「個別最適な学び」や、他の児童生徒の取組を見ることでヒントを得たり、自分と同じ考えや異なる多様な考えに触れることで自分の考えをさらに深め、友達と意見交換をする「協働的な学び」が見られる場面があるので、それらの実践事例を校内や学校間で共有しながら、1人1台のタブレット端末の活用を更に進めていく。

#### (3) 学びの保障について

児童生徒の実態等に応じて、ネットワークと1人1台端末を有効的に活用した支援の充実に取り組む。町の教育支援センターに通所する児童生徒の学びの保障の一環として、学校とのネットワークを利用した授業の配信等にも取り組んでおり、引き続きその充実も図る。

また、ネットワーク環境が整えられている家庭と整えられていない家庭とで家庭学習の差がつかないように、オフラインでも利用できる学習支援アプリを導入しているところであり、その活用の充実を図り、無線ルーターの貸出等を行いながら情報通信環境に左右されない学習支援に取り組んでいく。